

■カブ 適期に間引きを行う

生育適温は 15～20 度と冷涼な気候に適し、暑さと乾燥に弱い、寒さには強いという特徴があります。春まき(3～4月)と秋まき(9～10月)が一般的な栽培時期です。

【品種】

大きさ、形、色(白、赤)がさまざまですが、小カブ品種では、豊円形で耐病性・耐暑性のある「CRもちばな」(タキイ種苗)、低温期に向く扁(へん)円球で白さび病にも強い「雪牡丹」(武蔵野種苗園)、中大カブ取りもできる「スワン」(タキイ種苗)などがあります。紅カブや上半身が赤く細長い日野菜など地方品種もお薦めです。

【畑の準備】

種まき 1～2 週間前に 1 平方 m 当たり苦土石灰 100g をよく混ぜておきます。次に、化成肥料(NPK 各成分で 10%) 150g と堆肥 2kg を全面に散布し、よく耕しておきます(図 1)。

【種まき】

幅 100～120cm の栽培床を作り、深さ 1cm 程度のまき溝を 20cm 間隔で 4 条作ります。溝に 1～2cm 間隔で種をまき、薄く土を掛けます(図 2)。

【間引き】

発芽し、子葉がそろった時点で、まき過ぎて密になっている部分を間引きます。その後も、込み合ってきたら、生育の悪い株を間引きます。最終的な株間は小カブで

図1 畑の準備



図2 種まき

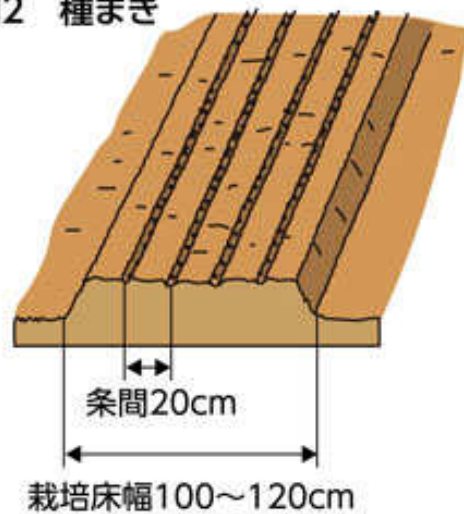
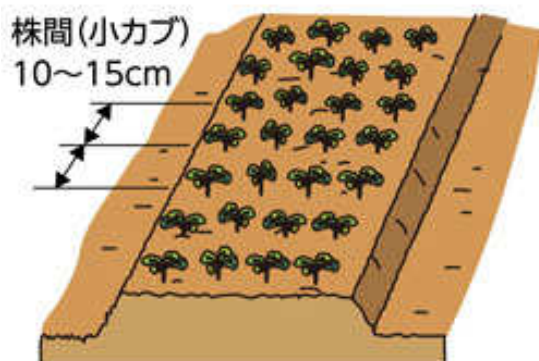


図3 間引き



10～15cm、中大カブで 20cm 程度にします(図 3)。

【追肥・土寄せ】

間引き後は株元へ土寄せして、株のぐらつきを防ぎます。中大カブでは、最後の間引き後に 1 平方 m 当たり化成肥料 30g を株元に与え、土寄せします。

【病虫害防除】

アブラムシには、マラソン乳剤など、アオムシ、コナガにはゼンターリ顆粒(かりゅう)水和剤(BT 剤)などで防除します。なお、栽培床に寒冷しゃをトンネル状に掛けたり、不織布のべた掛けをすれば、害虫の侵入を防ぎ、風雨から幼苗が守られます。

【収穫】

小カブは直径が 5cm 程度、中大カブは 10～15cm が適期で、早く育った株から収穫します。遅くまで置いておくと肥大が進み、す入りや裂根することがあります。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。